

伸びなかった動画を 失敗で終わらせない、 振り返りの5項目

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。

振り返りは、次に試すことを決める時間。

確認する5項目

目的と期待した行動

届いた相手と配信条件

冒頭から終盤までの伝わり方

視聴後の導線と反応の質

制作負荷と次に残せる学び

伸びなかった理由を一つに決めつけず、確認できる事実から変更を選びます。

伸びなかった、を**具体的な言葉**にする。

最初に整理すること

どの目的指標が期待と違ったか

どの動画や期間と比べたか

どこまでは想定どおりだったか

計測できず分からないことは何か

再生数が少ないことと、問い合わせや応募につながらなかったことを**分けて扱います**。

目的と期待した行動を見直す。

確認する問い

誰のどんな疑問へ答える動画だったか

見た後に何をしてほしかったか

一つの動画へ目的を詰め込みすぎていないか

その行動を見る指標は適切だったか

結果を見てから目的を都合よく変えず、公開前の企画書と照合します。

届いた相手と配信条件を確認する。

比較時に残す条件

対象 想定した視聴者と分かる範囲の実際

期間 公開後の日数と集計の締切

配信 予算・流入・投稿先の違い

計測 指標の定義・未計測・データ量

条件が違う動画を単純に順位付けせず、比較できる範囲と制約を明記します。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）



内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内で再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

伝わり方は、実際の場面で確認する。

動画と台本の**照合**

冒頭で**見る理由**が伝わるか

約束した答えが**本編にあるか**

具体例や根拠が**理解**を助けているか

字幕と音声**無理なく追えるか**

終盤の案内が**一つに絞られているか**

視聴の変化がある時点の前後を再生し、好みではなく伝達上の問題を言葉にします。

視聴後の**導線**と**反応の質**を確かめる。

動画の外も見る

案内したリンクが正常に開くか

移動先に期待した情報があるか

問い合わせや応募の操作が進められるか

反応の内容が狙った目的と合うか

動画への接触だけでは成果の理由は分かりません。営業や採用現場の記録とも照合します。

制作負荷と、**次に残せる学び**を見る。

続けるための確認

企画・撮影・編集・確認に使った時間

修正が集中した工程と理由

担当者が待っていた判断や素材

次回も使える台本・素材・手順

社内で判断できる範囲と外部へ頼る範囲

数字が良くても続かない負荷なら、**工程と役割を見直す**必要があります。

事実と仮説を、同じ文章に混ぜない。

書き分けの例

事実

冒頭の説明中に視聴が減った

仮説

答えが出るまでの前置きが長かった

未確認

対象や流入条件の違いが影響した可能性

次の確認

冒頭の説明順だけを変えて確かめる

これは記録方法の例です。原因を確定できないときは、仮説と明記して残します。

原因候補は、確かめやすい順に絞る。

変更を選ぶ基準

目的行動へつながる**課題**か

数字と映像の事実**に根拠があるか**

社内**で**変更できる**範囲**か

一つの要素として**試せるか**

必要な時間とリスクが**見合うか**

最も派手な改善案より、何を確かめられるかが明確な変更を選びます。

会議の最後に、実行する一手を残す。

次回への引き継ぎ

変更

次の動画で一つだけ変えること

固定

比較のために変えない条件

担当

制作・確認・記録を行う人

期限

公開日と結果を判断する日

誰かを責める結論で終えず、次の制作で実行できる具体的な指示にします。

続ける・変える・保留する理由を残す。

判断の選択肢

続ける	目的に合い、再確認する価値がある
変える	課題と試す要素が具体化できた
保留する	データや前提の確認が足りない
止める	目的とのずれや負荷・リスクが大きい

少数の結果だけで型を捨てず、反証や別の説明も確認します。必要なら外部レビューを使います。

月4本で、振り返りの型を試す。

モデルケース

企画と撮影は**社内で準備**

初期テンプレートは**外部伴走で整備**

各動画を**同じ5項目で振り返る**

8週間で反応の質と制作負荷を確認

成果保証ではなく検証のモデルです。次へ残す型と、試していない仮説を分けて整理します。

90日で、振り返りを制作の習慣にする。

0～30日

目的・5項目・記録担当を**決める**

31～60日

公開後に事実を確認し、一つずつ**変更する**

61～90日

学びと負荷を振り返り、役割と本数を**更新する**

期間は目安です。未解決の問いと次の判断日も残し、報告だけで終わらせません。

伸びなかった一本から、次の仮説を作る。

今日決める5つ

振り返る動画と目的指標

比較条件と分からない点

確認する台本・映像・反応

次に一つだけ変えること

最初の4本を振り返る日

ショート動画屋さんの内製化支援では、自社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する